

contents

・外来センター設立

脊椎・脊髄外科センター / 不整脈センター / 摂食嚥下センター
・集中ケア認定看護師教育課程入学式

- ・ PEG 地域連携研究会設立
- ・ 総合防災訓練
- ・ 診療科紹介 / 消化器内科
- ・ 医療の質をまとめた本を出版
- ・ 講演会等のご案内
- ・ 心臓病の早期発見と予防 / 新型インフルエンザの脅威とその対策 / 高齢者介護・看護・医療フォーラム



【杏林大学医学部付属病院】

〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel. 0422-47-5511 (代表)
http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital

■ 外来センター設立

当院は、基本方針の一つに「チームワークによる質の高い医療を提供する」ことを掲げています。この方針に従い当院では、一つの疾病に対し複数の診療科の医師が他職種の医療従事者とともに、専門的な知識と技術で患者さんの診療を行う外来センターを立ち上げました。このセンターの設立により、診療科の枠を超えた診療が行われ、これまで以上に良質で専門的な医療を患者さんに受けていただけるようになります。外来センターには、脊椎・脊髄疾患の診察、外科的治療を専門医が行う「脊椎・脊髄センター」、不整脈による症状と QOL (生活の質) の改善、心臓突然死の予知と予防を担う「不整脈センター」、摂食嚥下障害に対するチーム医療を行う「摂食嚥下センター」の3部門が設置されています。

◆ 摂食嚥下センター

複数の診療科医師や多職種の間による、摂食嚥下障害に対するチーム医療を行っています。水やお茶を飲む際にムセる方、嚥下性肺炎を繰り返す方の嚥下機能を検査し、嚥下指導や手術の適応について検討します。また、摂食嚥下障害のために既に胃瘻などの経管栄養が行われている方にも、現時点での摂食嚥下機能を検査し、少しでも口から食べる事が出来ないかを検討します。

【診療日】

月～金曜 午前8時45分～12時

土曜 午前8時45分～11時

<総括責任者> 唐帆健浩 (耳鼻咽喉科・頭頸科)

◆ 不整脈センター

不整脈の症状とQOLの改善、心臓突然死の予知と予防を担う部門として設置されました。高度先端医療技術を駆使した不整脈の診断・治療を積極的に提供し、特殊診断装置を用いて、患者さんのリスク評価を全国に先駆けて行っています。治療は薬物療法のみならず、高度先端医療機器である体内埋め込み式の植込み型除細動器 (ICD) などによる治療を積極的に推進しています。

【診療日】

初診: 月～金 午前9時～11時30分

再診: 月～金 (予約制)

特殊外来*: 水 午後13時30分～15時30分

*ペースメーカー・植込み型除細動器・心臓同期療法施行患者を対象

<総括責任者> 池田 隆徳 (循環器内科)

◆ 脊椎・脊髄外科センター

日本脊椎脊髄病学会の認定する脊椎脊髄外科指導医が、他科との協力体制のもと脊椎・脊髄疾患の診察、治療にあたります。手術中にCTナビゲーションシステムを導入したインスツルメンテーション手術や、腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術、レーザー手術など、最先端の治療を最新設備の整った施設で行います。

※初診は紹介患者のみ受付します。当院の医療連携室で「脊椎センター」をご予約下さい。

【診療日】

初診: 月、木 午後13時30分～15時30分

<センター責任者>

整形外科臨床教授、脊椎・脊髄外科指導医 市村正一

<統括責任者>

整形外科主任教授、脊椎・脊髄外科指導医 里見和彦

■ 集中ケア認定看護師教育課程入学式

当院は、昨年11月1日に集中ケア認定看護師(※)の教育機関として、日本看護協会より認定を受け、今年5月に第1期生となる入学者の募集を開始したところ82名もの応募があり、選抜試験を突破した24名の入学式が9月1日に行われました。

入学式では、福井トシ子看護部長からの訓辞に続き、道又元裕主任教員から「これから学ぶ6ヶ月の中で、この24名はかけがえのない仲間になります。将来、杏林大学病院の教育課程を卒業した人たちがリーダーシップをとるようになって欲しい」と励ましの言葉が送られました。これに答えて入学生を代表して木下恵理さんが「同じ夢を持つ友人たちと支えあい、集中ケア認定看護師になる為に日々勉強に励みます。学ぶほど謙虚になり、人として成長する努力を行うことを決意します」と誓いの言葉を述べました。

24名の研修生たちは、現在集中ケア認定看護師の資格取得を目指し、日々努力しています。

※集中治療室 (ICU) などに入院する重症患者の看護を行うための、集中ケアに関する専門知識と高い技術を身に付けた看護師の専門資格



「PEG地域連携研究会」を設立

円滑な地域連携の確立を目指して

消化器・一般外科では、内視鏡的胃瘻造設術（以下、PEG・percutaneous endoscopic gastrostomy）を精力的に行っており、平成20年度の総件数は131件になりました。患者さんは退院後、近隣医療機関に転医となるため、カテーテル管理・交換などに関して円滑な地域連携の必要性があります。そこで、胃瘻に関するネットワーキングを推進するとともに、正しい胃瘻管理の啓発を行い、地域医療に貢献することを目的として「PEG地域連携研究会」をこのほど設立しました。

会の具体的な目的は、①学術集会の開催、②コメディカル対象のセミナー開催、③PEGマップ、PEG地域連携パスを作成し地域連携を推進する、などです。本会はこの目的に賛同する三鷹市、武蔵野市、調布市、狛江市、世田谷区の医療従事者によって組織され、事務局である当科から顧問に跡見裕教授、代表世話人を杉山政則教授、幹事を竹内弘久医師が担当し、より円滑な運営を目指しています。

このようなPEGに特化した地域連携研究会は過去に例がなく、類似した研究会も三鷹周辺ではありません。超高齢化社会を迎えている時代の要請として、本会が果たす役割はきわめて大きいものと考えています。本会をきっかけとして、摂食障害の患者さんだけでなく、さまざまな疾患において地域連携がより円滑なものになることを願っています。第2回学術集会は11月6日に予定しています。

その他、当科が関与する地域連携に関する研究は次のとおりです。

- ・多摩大腸疾患懇話会
- ・Digestive diseaseカンファランス
- ・多摩低侵襲治療研究会
- ・多摩肝胆膵クラブ
- ・多摩ESDクラブ



地震を想定し総合防災訓練

「午後3時、多摩東部を震源とした震度6強の地震が発生。火災が発生した第1病棟3階、5階のベランダで数名が救助を求めている」の想定のもと、防災の日の9月1日（火）、当院のセンタープラザ中央で本部自衛消防隊長（総務部長）以下54名の自衛消防隊員や、三鷹消防署長以下約20名の署員らが参加して、初動処置と救助の訓練を行いました。総務課の後藤自衛消防隊長より三鷹消防署大隊長に119番通報が行われ、直ちに消防隊が救出救助活動を開始、続いて自衛消防隊とポンプ隊が一斉放水を行いました。



最後に後藤自衛消防隊長から「この訓練を機に更なる震災対策の徹底に努め、安全対策の万全を図るよう」との講評があり、演習を終りました。

診療科紹介

消化器内科

新宿以西最大の規模を誇る診療科

当科では、一般的なことから特殊な疾患まで最新の診断・治療法を駆使し診療を行っています。

当科の特色

- ・全ての消化器病を網羅する診療体制
- ・消化器病関連学会の専門医、指導医が19名在籍しています。食道から大腸までの消化管、肝臓、胆嚢、膵疾患と全ての消化器病を各種専門医が診療できる体制を整えています。
- ・24時間体制の緊急治療に対応
- ・緊急内視鏡治療、急性胆のう炎等へのドレナージ治療がいつでも行えるよう、24時間365日準備をしています。
- ・身体に優しい治療
- ・肝臓に対する超音波ガイドドレナジオ波焼灼療法、急性胆嚢炎、胆管炎に対するドレナージ術等、身体に負担の少ない治療法を目指しています。



◆公開講演会「心臓病の早期発見と予防」

講師 循環器内科 吉野秀朗教授
日時 平成21年11月7日（土）
午後13時30分～15時
場所 杏林大学大学院講堂



心臓病は、狭心症・心筋梗塞などの虚血性心疾患、心臓の収縮機能異常で起こる心不全など様々な病気があります。死に直結するものもあれば、早期発見し適切な治療によって日常生活を支障なく過ごせる病気も多くあります。

心臓病の発病の機序、病気の早期発見法、最近の治療法を、予防方法を含めて分かりやすく解説します。

■当院の「医療の質」をまとめた本を出版



「杏林大学病院を語る - 最先端医療で時代をリード - 医療者たちの熱い闘い」（発行元：インターメディカ 定価・税別：3,000円）が7月24日に全国の書店で発売されました。本書は、厚生労働省が重視するがんなどの4大疾病や医療計画（救急、災害、へき地医療、周産期、小児医療）を取り上げるとともに、多岐にわたる疾病の診療実績等を紹介しています。

◆第13回 高齢者介護・看護・医療フォーラム

世話人 杏林大学高齢医学 鳥羽研二教授
日時 12月5日（土）
午後13時～15時30分
場所 杏林大学大学院講堂



このフォーラムは高齢者の医療、看護、介護について実地業務に携わる方から、問題提起や取り組みについて話を聞く公開講座です。高齢医学の鳥羽研二教授のもと「認知症の現状を考える」と「病院・施設での転倒リスクマネジメント」の2つをテーマにシンポジウム形式で行います。

◆杏林医学会市民公開シンポジウム

「新型インフルエンザの脅威とその対策」



講師 神奈川県警友会・けいゆう病院小児科部長 菅谷憲夫 先生
日時 11月21日（土）午後13時～14時55分
場所 杏林大学医学部学生講義棟第一講堂

本シンポジウムでは菅谷憲夫先生に「ブタ由来新型インフルエンザ対策の課題」に関する基調講演をしていただきます。続いて、本学医学部・保健学部・杏林病院中央検査部および同医療安全管理室のスタッフにより杏林病院における新型インフルエンザに対する取り組み等を紹介いたします。